

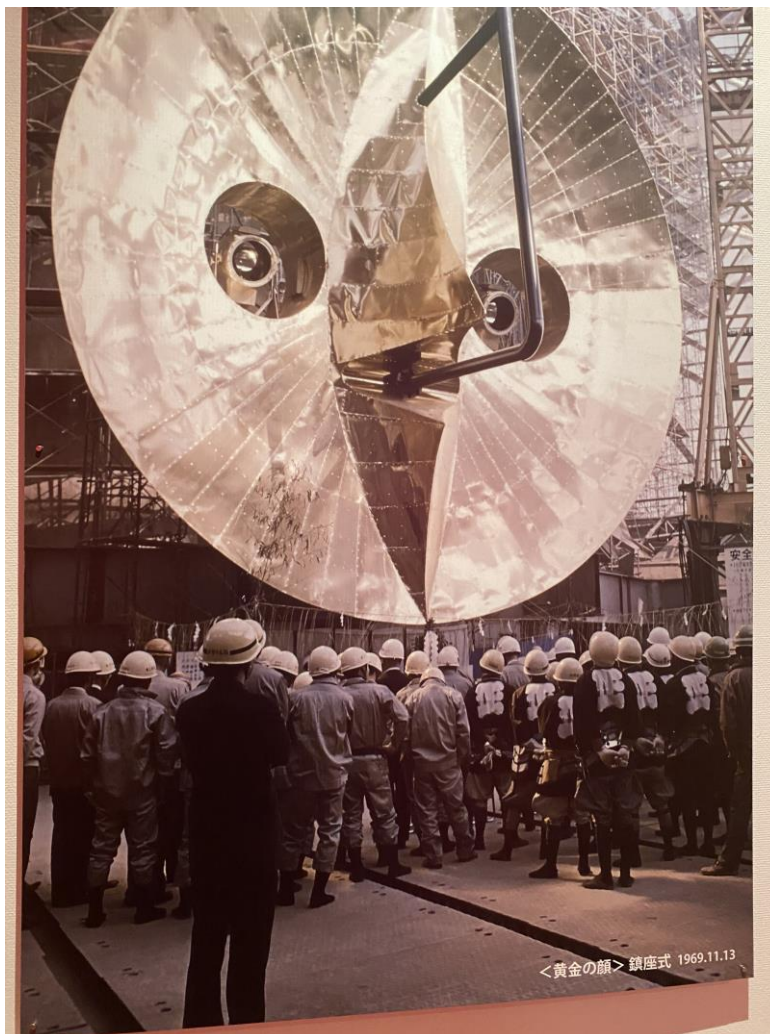
長畝ふるさと通信



【2021年2月号】

■ 正念場

農水省様はコロナ等の影響でコメの需給と価格の安定が崩れ、危機的な状況に陥りかねないとし、まさに正念場を迎えたと言っています。R2年度第3次補正予算と R3年度当初予算で3400億円に及ぶ大規模な予算を計上し、R3年の水田フル活用を進めようとしています。新潟県ではコメの生産目標数量を過去最大の12.7%減(74,500トン減、R2年59.5万トンがR3年は52万トンになる)とし、コメの生産面積を10.5%も減らすという。県内のコメ生産者はいくら補助金を積まれても飼料用米や加工米など安いコメでは経営が維持できない、今更、園芸作物に転換するノウハウもないと悲鳴を上げています。これまで米王国として稲作以外の作物栽培が他県に比べて遅れていたのは事実ですが、すでに遅しという感じです。総務省統計局の「家計調査」によると2014年からコメの消費量は「パン」に抜かれており、その差は増すばかりだそうで…。



<黄金の顔> 銀座式 1969.11.13

間コメ購入額では70歳代が28,000円であるのに対し、29歳以下は12,000円しかないそうです。このままでは10年後にはコメを買ってくれるヘビーユーザーがいなくなってしまう、益々深刻さは増すばかりです。どうしたらいいものか…。

■ 太陽の塔

新潟万代島美術館で「芸術は爆発だ！」の岡本太郎展を見てきました。不要不急の外出は自粛すべきところですが、悶々とした日々には風穴を開けたくてどーしても見たかったんです。

変人、異端児と呼ばれた人は「偉人」になっていました。

■ R3年の取り組み

こうした状況の中、今年は新しい取り組みを進めていきたいと思いを。

1. 田んぼからSDGsに取り組む

国連が2030年までに掲げた17の持続可能な開発目標には、「海や陸の豊かさを守ろう、生物多様性損失の阻止を図ろう」といった項目があります。田植えの時に撒く肥料には「プラスチック溶剤」が使われていて、それが溶けて川から海へと流れ、海の環境汚染の原因となっています。この「被覆肥料」と呼ばれるものは肥効特性がコントロールできる(田植え時に元肥と一緒に50～60日後に溶け出す穂肥を同時に散布できて、手間が省ける)優れたもので、日本の水田のおよそ6割が使っているという。私たちも省力化と効率化のために全面的に使用してきましたが、今年から佐渡版SDGsの先駆けとして、プラスチック溶剤肥料をできるだけ減らしていきます。



2. 国の政策とは逆行して、主食用米の栽培面積を増やし、転作大豆や飼料用米を減らします。

コロナの影響もあって「肉食」需要が高まっていることから、県の方針には従わず、コシヒカや新之助の栽培量を増やし、積極的に販売展開するつもりです。WCSや大豆の作付けはコメとの作期分散になり作業が分散される分、楽ができるのですが、そんなことは言ってもらえません。作業集中は覚悟のうえで主食用米を増やし「稼げる百姓」を目指します。皆さんも是非、ご協力ください。



太陽の塔は大阪万博のシンボルでした。岡本太郎は、「私は万博に協力する。だが妥協したり協調するつもりは少しもありません」と言ったそうです。コメ生産者として行政が示した生産調整には協力しますが、自己責任でこれまで以上にコメを作って販売していきます。太郎に刺激を受けました。